

平成30年度 さいたま市立三橋中学校 学校だより



架け橋

第6号

(平成30年8月28日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

高校球児から学ぶ

校長 永岡 良規

長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。今年の夏休みはかつて経験したことのない猛暑、連日の台風の発生など、天気予報から目を離せない日が続きました。そんな過酷な環境の中、3年生を中心に部活動では大きな成果を残してくれました。男女バドミントン部を皮切りに、剣道部、男子ソフトテニス部、陸上部が県大会でも大いに自分の力を出し切ってくれました。特に、男子ソフトテニス部は県大会第3位となり、関東大会でもベスト8（あと1勝で全国大会出場でした）の快挙を達成してくれました。陸上では、3年の山崎さんが関東大会、全国大会に出場しました。また、演劇部も見事に予選を突破し、3月に行われる関東大会出場を果たしてくれました。本当に多くの輝きがあった夏休みでした。

ところで、私の好きな高校野球は第100回の記念大会ということで、例年以上に盛り上がりました。大阪桐蔭の史上初の2回目の春夏連覇で幕を閉じた大会でしたが、高校野球の魅力は何といっても高校球児の野球に対するひたむきさです。今年も金足農業の吉田投手、大阪桐蔭の藤原選手など将来有望な選手が期待通りの活躍をした陰で、努力を積み重ね、レギュラーを獲得した選手がいました。

ある新聞の記事を紹介します。報徳学園の村田選手の記事です。「この夏、ラッキーボーイと言われた。チームのためになるのなら、何と言われようと構わない。ただ、ひそかに思っている。『偶然なんかじゃない』って。1桁の背番号をもらったことはなかった。背番号14で臨んだ東兵庫大会で打率3割と活躍。準決勝でも内野ゴロが相手失策を誘って競り勝った。『もってるな』ともてはやされ、甲子園では背番号7をつかんだ。部員が100人以上いる報徳学園は、体格もセンスも、人並み以上の選手がゴロゴロいる。そんな世界で自分にできるのは、誰でもできることを誰にでもできないくらい続けることだった。毎朝素振りをした。午前6時に寮を出て、グラウンド脇の鏡の前で、独り。雨の日も真冬も。体がしんどい日や、眠気に負けそうな日もあったけど、一度決めたことだから続けた。グラウンドの外でもやれることは全てやった。ゴミが目にとまったら必ず拾い、トイレのスリッパも直した。そうやって、やっと来られた甲子園。2番打者として、全試合スタメン出場を果たした。」

「誰でもできることを誰にでもできないくらい続けること」によって、自分の目標を達成した村田選手。この記事は私たちに大切な示唆を与えてくれていると思います。

史上初の逆転サヨナラ満塁本塁打を打った済美高校の矢野選手は言っていました。「野球の神様はいるんだと思った。神様は球児の努力を見ている。」